

令和3年度小平市立上水中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

○全国の正答率を上回る東京都の正答率を基準に見ると、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」の全てにおいて5～6ポイント高く、特に10ポイント近く高かった項目が、「書くこと」と「話す・聞く能力」であり、もともと得意分野だった力と、課題であった分野の力が大きく伸びたと考えられる。

○伝える気持ちや人前で発表したい気持ちを、相手に分かりやすい語句を選択して発表したり、分かりやすく工夫して伝えたりすることをより意識させる必要がある。

○漢字の読み書きは日常の言語活動や小テストを通して触れ続け、正しい文章に親しむ必要がある。

○読書や新聞を通じて、正しい文章を読む活動を通して、語彙の適切な意味について理解・活用する力を継続して育成する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- 1 目的に応じて書いた文章や相手に分かりやすく伝える文章で、自分の実生活や体験につなげて深く豊かなものにできるよう、例を挙げながら繰り返し指導する。書いた文章を読み合って交流する活動を通して、良い文章に触れる機会を増やす。
- 2 毎学期行っているスピーチでは、書いた文章を自分で推敲させることで、どうしたら相手により伝わる表現になるかを考えさせる。
- 3 語意を文脈の中で生かしたり文の成分を上手く組み立てたりするには、朝読書で良書を選び、語彙力を付けることが大事であることを毎日伝える。教科書の音読の大切さを繰り返し伝え、実践させる。

【数学】

状況の分析

課題

- 正答率は都平均より7ポイント、国平均より9.8ポイント上回る結果となった。特に数学的な技能に関する問題の正答率が高かった。
- ヒストグラムの散らばりを見ると、中央値の前後3ポイントに約7割の生徒が入っている。中央値に入る生徒が最も多かった。
- 正答率が28.0%と低い問題は、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題であった。数学的な見方や考え方の問題の正答率が低かった。

- 授業で学習した直後には理解できていることも、時間が経過したり、場面が変わったりすると分からなくなる生徒がいる。知識のつながりや積み上げ、また、既習事項を用いて様々な方法で問題を解き、答えを導き出す力を身に付ける必要がある。
- 基礎計算力は全体的に身に付いているが、自分の考えを説明することに苦手意識をもっている生徒がいる。事象を数学的な見方で捉え、数学的な考え方を用いて説明したりする能力を高める必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

授業中は、概ね教師の説明や指示を理解することができている生徒が多いので、引き続き、指示の出し方、説明の順序、本時のねらいを明確にすることを意識して、教材研究をさらに深めていく。また、習熟別指導により、数学への興味・関心をさらに高めるため、以下の4点に取り組む。

- 1 板書についても事前に板書計画を立て、見やすく分かりやすい板書を今後も実践する。
- 2 授業では、中心となる質問や、考え方を広げることのできる質問について、しっかりと時間を確保する。
- 3 授業中の問いかけに対してなかなか発言できない生徒が多いため、グループやペアでの活動を充実させることで授業中に発言する機会を増やす。同時に、数学的な表現を用いて説明したり記述したりすることを通して説明力や論証力の向上を図る。
- 4 数学を得意と感じている生徒は、周りの生徒に教えたり、考え方を発表させたりする機会を与え、苦手意識が強い生徒には、基礎学力の定着に重点を置き、時間をかけて丁寧な指導を心掛ける。

【質問紙】

状況の分析

課題

- 基本的な生活面「毎日朝食を食べている」については全国より2.3ポイント高い。しかし、「同じくらいの時刻に寝ている・起床している」については全国より9.9ポイント低い。
- 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」については「している」と「どちらかというとしている」の合計が全国を3ポイント、都を4ポイント上回った。
- 「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」については、全国より6.5ポイント高く、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」についても7ポイント高かった。
- 「将来の夢や目標をもっていますか」については、全国より6ポイント低く、「自分でやるときめたことは、やり遂げるようにしていますか」についても9.5ポイント低かった。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがありますか」については、全国より3.3ポイント高いが、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」については、7ポイント低かった。

- 基本的な生活習慣は身に付いている生徒が多く、家庭の支援や協力の成果と考えられる。一方で、スマートフォンやゲームを長時間に渡り使用している生徒も見受けられ、時間の使い方や家庭での約束を守っていない様子がある。
- 家庭学習は、習慣化され定着している生徒が増えている一方で、全く行わない生徒も多く、二極化が見られる。
- 授業に真面目に取り組む生徒が多く友達と協力することは楽しいと感じている生徒も多い。また、自分の意見を述べたり他の生徒の意見を聞き、多角的に考えられる生徒も増えてきた反面、自分で決めたことを実際の行動に移すことに関しては、積極性に欠ける面が見られる。
- 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」について、「当てはまる」の回答率が高く、学習面でも受け身的であったり、自信のなさもうかがえる。

学校で取り組む具体的な改善策

- 1 計画的な家庭学習の充実のため、決められた宿題だけでなく自主学習を進める取組として、放課後の自習教室を開設したり、デイリーライフを活用し、見通しをもって学習することを支援する。
- 2 各教科の授業や特別活動等において、生徒が主体的に考える時間を意図的・計画的に設定し、自分の意見を表現する機会を増やすとともに、互いに意見を交換したり教え合う場を設定する。
- 3 各教科の授業や特別活動等において、自分に合った目標や課題を設定し、それを達成していくことで少しずつ自信を付けさせる。